

解剖学第二

1 構 成 員

	平成 13 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
助教授	1 人	
助手（うち病院籍）	2 人	(0 人)
大学院学生（うち他講座から）	1 人	(0 人)
研究生	3 人	
外国人客員研究員	0 人	
技官	2 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	11 人	

2 教員の異動状況

- 山下 昭（教授）（期間中現職）
 宮本 愛（助教授）（期間中現職）
 鈴木 英年（助手）（期間中現職）
 古川 弘（助手）（期間中現職）

3 研究業績

	平成 12 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	6.248	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(編)
そのインパクトファクターの合計	0	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(編)
(6) 国際学会発表数	0 編	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Gu S., Furukawa H and Yamashita A (2000) Observed localization of the long-term cultured rat natural killer cells in mammary tumor tissue. *Cancer Immunol. Immunother.*, 48:703-13.
2. Suzuki H, Imada M, Sano T, Hattori Y, Harada Y, Okamura H, and Yamashita A (2000) Ultrastructural and functional studies of cryopreserved rat lungs for transplantation

using a new hyperosmolal solution. Acta Anatomica Nippon 75:275-283.

3. Suzuki H, Patel N, Matthews M, DelRossi AJ, Doolin EJ, Hewitt CW (2000) Vascularized bone marrow transplantation : A new surgical approach using isolated femoral bone/bone marrow. Journal of Surgical Research 89:176-183.

インパクトファクターの小計 [3.722]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Nakahara D, Nakamura M, Furukawa H and Furuno N (2000) Intracranial self-stimulation increases differentially in vivo hydroxylation of tyrosine but similarly in vivo hydroxylation of tryptophan rat medial prefrontal cortex, nucleus accumbens and striatum. Brain Res., 864:124-129.

インパクトファクターの小計 [2.526]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者，共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが，当該教室に所属する者が含まれるもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者，共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが，当該教室に所属する者が含まれるもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者，共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが，当該教室に所属する者が含まれるもの

(6) 国際学会発表

4 特許等の出願状況

	平成 12 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 12 年度
(1) 文部省科学研究費	0 件 (万円)
(2) 厚生省科学研究費	0 件 (万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (万円)
(4) 財団助成金	0 件 (万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	2 件 (30 万円)

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	平成 12 年度
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件
(2) 国際・国内シンポジウム発表数	0 件
(3) 学会座長回数	0 件
(4) 学会開催回数	0 件
(5) 学会役員等回数	7 件

(5) 役職についている学会名とその役割

癌の薬物療法を考える会 世話人

消化器免疫学会評議員

生体防御学会運営委員

免疫学会運営委員

解剖学会評議委員

リンパ学会理事

マクロファージ分子細胞生物学研究会運営委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成 12 年度
学術雑誌編集数	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 12 年度
(1) 国際共同研究	2 件
(2) 国内共同研究	2 件
(3) 学内共同研究	2 件

(1) 国際共同研究

Dr. Charles W. Hewitt (UMDNJ Robert Wood Johnson Medical School)

新しい血行性骨髄移植による免疫寛容誘導に関する研究（鈴木）

(2) 国内共同研究

酒井隆敏（日本エスエルシー株式会社）

臓器による免疫寛容誘導能力に関する研究（鈴木）

(3) 学内共同研究

第一外科：同所性気管移植の研究（鈴木）

10 産学共同研究

	平成 12 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞（学会賞等）

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道